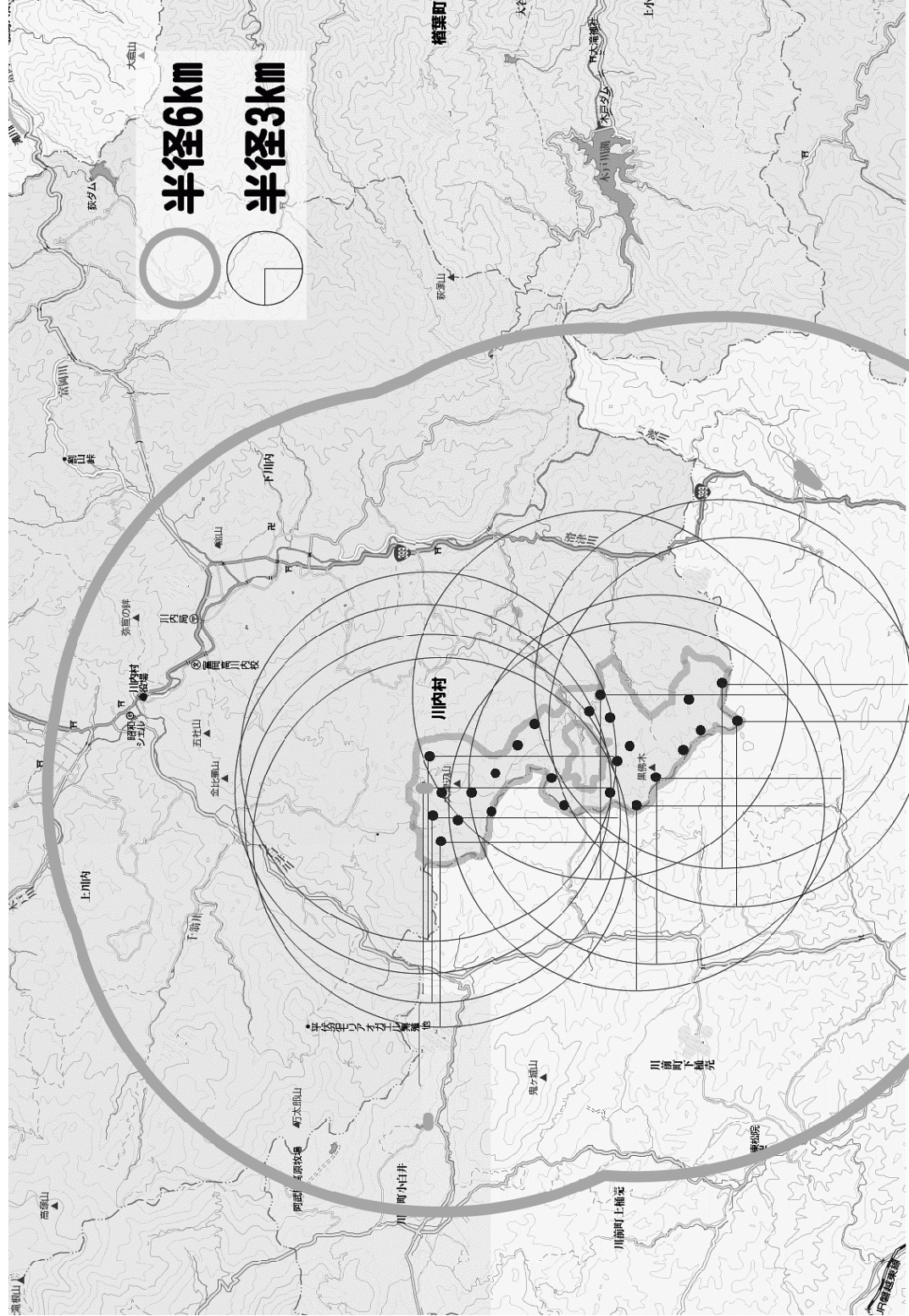


これだけは知っておきたい 『風車病』のこと



(株) クリーンエナジーファクトリー（北海道根室市。鎌田宏之社長。以下CEF社）が、高さ129m（1枚の羽根の長さ44m、プロペラの直径100m）、定格出力2500kwという国内最大の風車を26基、川内村南部に建てる計画を表明しました。

付近住民として、『風車病』と呼ばれる新しい健康被害の実態を知っておく必要があります。そのための資料をまとめました。文中に出てくる被害者のかたがたのコメントは、南伊豆で風力発電問題を考えるグループが、2008年11月26～29日、すでに風車病被害を受けている渥美半島を取材して集めた、現地の生の声です。

風車病』とは何か？

風力発電用の巨大風車が発する超低音（その成分の多くは耳に聞こえないほどの低周波）により、頭痛、めまい、吐き気、睡眠障害、平衡感覚喪失などが出る症例を、近年こう呼ぶようになりました。

低周波を浴び続けることで癌や白血病が多発する、あるいはDNA（遺伝子）障害を起こし、不妊症や奇形児出産の危険性が高まるとした研究も出ています。

しかし、今まで巨大風車を知らなかった日本では新しい公害のため、まだ原因究明や因果関係証明などがほとんどされていません。そのため、規制する法律や法的救済策なども存在しない状態です。

ただ、去年あたりから全国での風車被害が急増したため、新聞やテレビでもこの問題を取り上げています。国会でも2008年9月25日に、保坂展人衆議院議員が政府に風力発電の実効性への疑問と、各地で起きている低周波被害について質問書を提出しました。しかし、これに対して政府は型どおりの回答をただけでした。

風車からどのくらいの距離まで影響が出るのか？

1500kw級の風車1基が建つ細谷風力発電所（愛知県豊橋市）で、風車から3km離れて住んでいるかたが不眠などで苦しんでいる実例があります。

「3kmも離れているから大丈夫だと思っていた。まさか自分が……と思ったよ。風車からの騒音は聴こえるが、夜中かすかに聴こえる程度なので、最初はなぜ起こされるのかわからなかった。低周波の被害は2km位までと聞いていたのに……。しかし、現に私は3km離れていても苦しんでいる。

今でも眠れない日々は続いている。風車稼働後すぐに症状が出た。今までとは違う体の感覚で、夜眠れなくなった。寝ついても、夜中2時～3時頃起こされてしまう。そのような時間に起こされるものだから、毎日寝覚めが非常に悪い」

ちなみにこの風車は、CEF社が川内村に建てようとしている風車と同じGE社製で、羽の回転円直径77m、定格出力1500kwのものが1基です。川内村に建設予定の機種は定格出力2500kw（国内最大級）で、回転円直径100mのものが26基です。

これだけの規模の風車群を山頂に並べるといふケースは今までないので、そこから出る低周波のエネルギーがどのくらいまで及ぶかは、想像するしかありません。

1500kw級1基が発生する低周波で3km離れた住民が現実健康被害を受けているので、当然3km圏内は被害が出るでしょう。では、2500kw×26基ではどれだけ広範囲に被害が出るのか？ 小さく見て、倍の6kmとしても、村役場や小中学校が6km圏内に入ります(表紙の図参照)。3倍の半径9km圏となると、高塚山、毛戸ダム、大鷹鳥谷山付近まで到達します。まだ誰も経験のない規模のもので、はつきりしたことは何も分かりません。

風車病の症状はどの程度のものか？

「音はしないのに、夜眠れない。毎晩2時、3時になると、妙な感覚で目が覚める。音ではなく、耳の奥でグワー、グワーと渦まくような感じ。風車稼働後、半年経つてから不眠症状が始め、最初はなぜなのかわからなかったが、だんだんとその響きのリズムが風車の回転と一致している事に気がついた。今も睡眠不足の状態がずっと続いている。

先日、ついに仕事中に睡魔に襲われて車をぶつけた。妻は眠れない苦しさをから実家に帰ってしまい、やむなく別居生活になった。たった1基の風車が建ったおかげで被害は甚大、生活はめちゃくちゃだ。今でも月一で事業者と話を続けている。土地を売るうにも、こんな状況になった土地を買う人などいないだろう」(豊橋市・細谷風力発電所付近住民 Mさん)

「風車が来てから病院通いはかりになった。稼働後半年くらいで体調が悪化して入院。検査したら心臓の回りに水がたまっていた。検査しても原因が分からない。風車が少しでも回ると耳の奥が痛くなる。風車から離れると症状は和らいで楽になる」(同所住民 Nさん 女性)

「胸を前後からグーツと圧迫されている感覚で、常に苦しいんです」(同所住民 Mさん 女性)

低周波による健康被害を行政や風力発電会社は補償してくれるのか？

「医者に行っても異常がなく、更年期障害ではないかと片づけられてしまふ。苦しさは風車が稼働してから始まり、風車から遠ざかれば和らぐ。でも、誰も理解してくれず、低周波による被害とも認めしてくれない」(前出 Mさん 女性)

「この町は(風力発電に出資している)トヨタに食わせてもらっている。苦しんでいる人はいっぱいいるが、言えない。耐えきれなくなった人たちは、家を捨てて遠くへ出て行った」(田原市・田原臨海風力発電所付近の住民)

防音対策などはできないのか？

一般の騒音公害は、遮音壁や二重サッシなどである程度軽減できますが、低周波は物体を直接伝わって回り込む特性があるため困難です。下手に防音するとかえって家の中に低周波がこもり、ひどくなることもあります。また、聴感上「聞こえない」音が相手のため、普通には低周波が届いているのかどうかも分かりません。

風車病以外の問題点

●風力発電は石油を余計に使うシステム

風が吹かなければ発電量ゼロ。しかも、いつ、どれくらい発電できるか予測できない風力発電の電気に合わせて火力発電所などをこまめに出力調整することは極めて難しいことです。特に、ただでさえ電力が余っている夜間に、さらに風力発電から強制的に電気を買わされると送電システム全体の発電量調整が困難になるため、電力会社の現場も困っています。たとえ風力発電の発電時間、火力の出力を下げたり、発電機を切り離して発電ゼロにしても、燃料は燃やし続け、常にスタンバイしてないければなりません。風力発電が化石燃料の節約になるのであれば、風力発電をした結果、火力発電所の燃料消費量が減っていなければなりません。そうしたデータはどこからも出てきません。税金を強制投入して巨大風車を作るとは日本の発電事情を悪化させるだけで、むしろエネルギーの無駄遣いになっています。

●水源地喪失

CEF社が目をつけたこの土地は、川内村住民だけでなく、いわき市北部の住民の生活を支えている貴重な水源地です。大津辺山(778m)と黒佛木山(750m)の山頂をすっぽり囲む広大な面積が大規模伐採された際の水資源破壊は壊滅的と言えます。沢が涸れる、井戸水が出なくなるなどの事態も起こりえるでしょう。

★過去、自治体首長が反対表明して撤回させたケースは、長野県伊那市など、複数あります。(以上、編集・文責：鐸木能光 川内村上川内在住)

★<http://no-windfarmnet/> に、随時情報を掲載・更新していく予定です。